

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	(ア) <u>教室不足解消による教育環境改善</u> ・ 中学校の新校舎 1 棟 4 教室を 2 棟が完成し、中学校の教育環境改善の条件が整った。 ・ 小学校の 1 棟 3 教室の補修を行い、小学校の教育環境改善の条件が整った。 (ア) <u>スラエチェーン地区の小中学生の就学率の向上・退学者の減少</u> ・ 2014-15 年度小学校 1 年生就学 63 名(100%)、中学 1 年生 117 名(150%) ・ 退学者 136 名中、20 名(約 15%)が復学。 (ウ) <u>トイレ・手洗い場・雨水貯水タンクの設置で衛生環境の改善</u> ・ 中学校に新しいトイレ 4 室と手洗い場 1 基を設置、小学校のトイレ 2 室を補修、手洗い場 1 基を設置。どちらも雨水貯水タンク付き。 ・ これまで、650 名の生徒に対しトイレ 1 室だった劣悪な環境が改善された。 (エ) <u>校舎維持管理のための学校運営委員会の組織化</u> ・ これまで小学校にしかなかった学校建設委員会を、小学校と中学校のそれぞれに学校運営委員会を設置。 ・ 1 年に 1 回各世帯から修繕積立金を集めることにした。 (カ) <u>地域に開かれた図書館の開設</u> ・ 中学校に政府の基準を満たす新しい図書室を設置。 ・ 小中学校の生徒だけではなく、村人にも利用可能な図書室とし、大人用の農業系の本なども設置した。
(2) 事業内容	(ア) <u>トゥールプチャック中学校の建設</u> ・ 新校舎建設予定地(110m×48m)に、4 教室平屋(40m×9m)を 2 棟建設できた。 (イ) <u>アンボーワンジョッテラン小学校の補修</u> ・ 1996 年建設の 1 棟 3 教室の屋根、床、壁の補修を行った。 (ウ) <u>トイレ・手洗い場の設置で衛生環境を改善</u> ・ 新設の中学校には、雨水を利用できるシステムを備えたトイレ 1 棟 4 室と手洗い場 2 基、2 つの校舎に雨水の貯水タンクをそれぞれ 4 個(2500L×4)、合計 8 個設置した。 ・ 小学校のトイレは、トイレ 1 棟 2 室を補修、雨水を利用できるシステムを備えた。さらに、手洗い場 1 基、校舎にトイレの水を確保するための雨水タンク(2500L×1 個)を設置した。 ※ 当初、3000L のタンクを設置予定だったが、規格に合うものがなかったので 2500L とした。その分、エンジニアから井戸の水をくみ上げるモーターの寄付を受けた。 (エ) <u>地域住民参加の校舎建設、「学校運営委員会」の組織化</u> ・ 建設にあたっては住民や生徒に、施工前の整地および基礎工事における埋め戻し作業に参加してもらった。

	・新しく門を設置する場所から校舎に向けての道路を地域住民が整備した。及び、学校の裏側の通学路の整備も行った。 ・工事に携わる職人の3分の2程度を村人から採用できた。 ・「学校運営委員会」を設置し、維持管理は学校が中心になり、住民が協力して行うようにした。構成員は地区長、村長、校長、村民などから選出した。 (オ) 地域に開かれた図書室の設置 ・図書は辞書15冊、生徒用381冊と、村人用265冊(農業、生活知識など)合計661冊を購入し、学校へ届けた。 ・本棚4個、机と椅子のセットを設置した。 ・全ての図書には、長く使えるように、図書館員を中心に生徒とビニールカバーをつけた。 ・農民講座1回目「衛生的な生活」についての講座を、地域の保健センター長を講師に招いて、学校の隣のお寺で開催した。参加人数は、約100名。 ・農民講座2回目「地域に開かれた図書室」講座。村人の代表を招いて、図書室の説明、図書の本の紹介、貸し出しの仕方等を伝えた。参加人数は、約60名。
(3) 達成された成果	(ア) 物理的な面での教育・衛生環境に関する課題を解消 ① 中学校に新しい8教室が完成することによって教室不足が解消し、進学を希望する6クラス約274名全員が学習できる環境が整った。 ② 中学校から小学校の教室が返却され、さらに、その老朽化した3教室を補修することによって、安全に使用できる教室が2棟6室揃った。また、小学校の教室不足が解消し、進学を希望する9クラス約377名が学習できる環境が整った。 また、スラエチェーン地区には就学していないか退学した子どもが136名おり、この子どもたちの15%(20名)が復学することが可能になった。残りの退学者は、両親や本人が出稼ぎに行ったため、村を離れている。今後、新しい校舎ができ、希望する生徒をきちんと受け入れられるようになったことで退学者も減少する可能性がある。しかし、カンボジアの農村は依然として貧困であり、乾期には仕事なくなり、タイや首都に出稼ぎに行かざるを得なくなり退学してしまう問題は、すぐには改善が難しい。今後は、地区長、村長などが村人に教育の大切さをしっかりと粘り強く訴える必要があると考える。 ③ 中学校にトイレ1棟4室を設置、小学校のトイレ1棟2室を補修し、雨水を利用した手洗い場付きが完成したことによって、たった1室のトイレを小・中学校の15クラス651名が使用せざるをえない劣悪な状況が解消された。 ④ 小・中学校に政府の基準を満たす図書室がない状況から、中学校の新校舎に図書室が完成した。図書室は、小学生も、村人も使用できる地域に開かれた図書室とした。これまで、教科書以外の本がないという

	状況から、生徒や村人が知識を得るのに十分な環境が整った。 (イ) 運営面での課題を解消 補修費用の不足を解消するため、補修費用の積立の推進をしていく地域の組織である「学校運営委員会」を結成した。 ・ 小学校は、委員長 1 名、委員は 11 名。 1 年に 1 回 (1 月)、1 世帯 10,000R (\$2.5) を募ることで合意した。 ・ 中学校は、委員長 1 名、委員は 10 名。 1 年に 1 回 (1 月)、1 世帯 5,000R (\$1.25) を募ることで合意した。
(4) 持続発展性	(ア) 学校の安定した運営 8 教室中 2 教室を職員室、図書室とした。職員室があることで、教師が教材や書類の作成・保管に使うことができ、学校運営の基盤が整った。 教師の配置については事前に州政府の了解を得てから開校し、給与も政府から支払われるため、安定的に運営される。 (イ) 「学校運営委員会」・「補修積立金」の推進 「学校運営委員会」を中心に、積立金は年 1 回村長が村民から集め、運営委員会が管理する。開校 1 年後当会が学校を視察し、校舎の不具合については直ちに補修するが、その後の不具合については、政府の資金、及び補修積立金で持続的に校舎の管理を行えるようにした。 (ウ) 教師による衛生指導の実践 (理科教育の一環) 児童生徒がトイレ、手洗い場を適切に利用することができるように、教師が適切な指導を行うことができるようにした。具体的には、校舎完成後、小学校と中学校の全教師を対象に、「衛生的な生活指導教師研修会」を開催した。トイレの利用の仕方、手洗いの習慣を身につけさせるための衛生指導の充実を図った。教材を整備し、継続的に、適切な指導が行われるようにした。 (エ) 地域に開かれた図書館活動の推進 ・ 広く地域住民にも開かれた図書館とするため、図書室の利用促進と生活向上を目的とした。 ・ 本の貸出もできるようにし、毎年の補修積立金の一部を図書購入費に当てて、生徒や村民の希望する図書を購入し、図書の充実を図るようにする。この活動が定着するまでは、定期的に指導助言を行う。 ・ 生徒からなる図書委員会を構成して本の維持管理に当たるようにもした。 ・ 農業知識を中心とした講座を残り 1 回開催する予定。 (開校 1 年後の 2015 年 10 月)